

No	内容	分類	反映内容
(1) 総合的な推進			
1	目標値を増加率で算出している箇所があるが、根拠が分からない以上は国が提唱している95%とするほうが良いのでは。	意見を反映	資料2-2 P5 82%に設定 (資料2-1 根拠資料)
2	[歯科健診・かかりつけ歯科医・PMTC] 令和3年度のコロナ影響について、歯科健診を含めた国民・県民の動向を加味して、平成28年度との比較を分析されてはいかがか。 特に図1での年齢では受診行動に差があったのではないか。	意見を反映	資料2-2 P2 図1に反映 全世代で改善傾向
3	[ライフステージに応じた歯科・口腔保健サービスの推進] 乳幼児から口腔機能に対する取り組みを加えてはいかがか。	意見を反映	資料2-2 P7~P9に記載
4	[主な施策] ・県の取り組みに「歯科健診の機会を増やす」とあるが、実効性のある事業を行えるのか。 ・「妊婦歯科健診の充実」に関して平成28年度より変化がなく、また市町間での内容・費用の違いもみられていない。充実と記載していくことでの具体的施策を提示していかなければ変化はみられないのではないか。 ・「大学生・成人期以降の定期的歯科健診・保健指導の実施機会の増設等」に関しても、かなり強力にすすめなければ施策としての実効性はないのではないか。	意見を反映	・資料2-2 P6, P10~11, 市町、職域、大学生の歯科健診, ・P8産科医等から勧奨 ・P11学生の声から実現
(2) 次世代への支援			
1	飛沫が飛ぶ恐れのある歯みがき等については施設で自粛していたこともあるので、今後その影響も出てくるかも。 う歯のある者の割合は"0"が理想だがもう少し刻んでみても良いのかもしれない。	意見を反映	資料2-2 P7 1.3%に設定 (資料2-1 根拠資料)
2	食と歯は関連が深いと思う。食事について記載があるが、実践する主体の記載がないことが気になり。	意見を反映	資料2-2 P7~9に明記
3	口腔崩壊という言葉が報道ではよく言われている。個々の家庭状況に介入しないと達成できない指標があると思うが、具体的な施策がないといけないと思う。	意見を反映	資料2-2 P8~9 フッ化物 応用によるむし歯予防と関係者への研修会
4	3歳児健診の結果で評価するとなると、3歳児健診に来られない子供のことはどうなるのか。何を以て評価するのかで違ってくるのではないか。	意見を反映	資料2-2 P7 「3歳児健康 診査」で評価
5	3歳児、12歳児の健診時が令和3年度はその時期に行えたかが不明(コロナ影響で)。参考程度の資料の可能性はないか。 地域格差の課題と記載されているが、内容が良く読み取れないので記載されるならもう少し具体的な課題を明記してはいかがか。	意見を反映	資料2-2 P7 都市部と地方 との地域格差と明記

No	内容	分類	反映内容
6	「科学的根拠に基づいた」とあるが、個別事案の可能性があり、教育委員会等との連携とあるが、県庁の福祉部門や市町関係者との線密な関係構築が必要と思われる。	今後の取組の参考	
7	[妊婦歯科健診・歯科保健相談事業等の推進] 前出、県下全域で等しく取り組まれるようにもっていくことが必要でないかと考える。集団・個別・費用等、県下ではまだまだバラツキがあると考え。	今後の取組の参考	
8	[教育委員会・学校・保育関係者と連携した子どもの健康教育の推進] フッ化物応用の考え方に相違がみられるが、推進は可能か。 第3次の目標をどこにおいていくのか。 実施可能な内容はたして何か、明記していく必要がある。 またコロナ等感染症発症時での口腔保健のあり方の記載はいらぬのか。	意見を反映	資料2-2 P8~9 主な施策 (市町支援、研修会等) P17~18災害時や感染症蔓延時に備えた歯と口腔の健康づくり
9	[主な施策] ・妊婦普及啓発のみでなく、市町間のひらきに対する取り組みはどうか。 ・フッ化物の学校関係に対する取り組みの記載はどうか。	今後の取組の参考	
(3) 青年期・成人期への支援			
1	「健口」の記載には補足が必要なのでは。さらに「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ歯科」、「かかりつけ歯科医院」の記載を整理したほうが良い。	意見を反映	健口を削除し、かかりつけ歯科医に統一
2	歯周病に歯肉炎を含む箇所と歯周炎(歯肉炎)と記載されている箇所もある。言葉の定義を明確にするべきでは。	意見を反映	P10「進行した歯周病」と表記し歯周炎は削除
3	青年期と成人期を優先的に取り組めば最終的に高齢者につながっていくと思う。	意見を反映	P10 青年期にライフコースアプローチについて表記
4	図2が20歳からの集計となっているが、参考に18歳があると、20歳、30歳の増加が分かりやすいのではないかと。 評価の内容に、若者の歯科健診受診機会を増やすとあるが、健診受診が増加するのか。また、20歳、30歳の健診者数が少ないので、40歳以上と比較できるのかわからない。	今後の取組の参考	18歳(学校)と20歳以上の歯科健診(市町)はと出典が異なる
5	[大学等での歯科保健対策の実施促進] すでに過去からの取り組みの結果として健診がすすんでいない現状があり、記載内容では変化をもたらすことができるのか。	意見を反映	資料2-2 P11 大学生の声から実現を目指す
6	[特定健診等における咀嚼等に問題のある人への取組の推進] 県として集団での健診会場での歯科健診の取り組みはどうか。	今後の取組の参考	資料2-2 P11 歯科受診勧奨を検討
7	[チャレンジ企業] 参加者が少ない現状を改善していくことが重要と考えている。	意見を反映	資料2-2 P11 健診+出前講座の充実、企業への情報提供

No	内容	分類	反映内容
(4) 高齢期の取組			
1	歯を失った人についての記載が必要なのは。	意見を反映	資料2-2 P4, P12に明記
2	唾液の減少について言及されているが、実際は口腔機能低下によるものが多いと思うので、唾液の減少の記載は不要では。	意見を反映	削除
3	[オーラルフレイル] オーラルフレイルで診療所で口腔機能検査を行うのは、個別オーラルフレイル健診を県としてすすめようと考えているのか。診療所で口腔機能検査を行うことは、口腔機能低下症に対してである(診療)と考えるが。	意見を反映	資料2-2 P13 OFの対応歯科医はハイリスク対応、一般検査(問診含む)は他職種も関与
4	他職種で研修ができると情報共有にもつながるので検討して欲しい。まちの保健室、栄養ケアステーション等で連携できるのでは。	意見を反映	資料2-2 P13に明記 {(5)から移動}
(5) 配慮を要する者への支援			
1	障がい者で歯医者に行けない人も多いが、対応できる地域、できない地域がある。障害者施設だけでは限界がある。	意見を反映	資料2-2 P15 施策に歯科リストや相談窓口、巡回歯科相談等を明記
2	歯科医師が施設と提携している場合は施設に健診に来てもらえるので、お口の状況が良くなるのでは。	意見を反映	資料2-2 P15, P16に明記
3	知的障害者がある子どもが歯医者を受診することが難しい。兵庫県下で開業されている歯科医で、知的障害者にも対応してもらえる先生のリストがあれば会員の皆様にも紹介できるのだが。	意見を反映	資料2-2 P15 主な施策にリスト作成を明記
4	歯科健診は自費となるため増加額に、県から助成等は考えられないか。	今後の取組の参考	
5	5～6年(10年)後の地域診療所数の変化について考えているか。高齢者数も減少し、地域が広がる中で記載内容のように住民が診療所と関わり続けていくには、新しいシステムの導入が必要ではないか。入所施設に関しては、診療所数の確保についても将来図が必要。	意見を反映	資料2-2 P14, P17に検討課題として記載

No	内容	分類	反映内容
(6) その他			
1	参考指標は良い考え方だと思う。 施策に手段が入っていない指標があるので、極力手段を記載するべきだ。(推進するという記載だけでなく具体的な記載が必要)	意見を反映	モニタリング指標に改名 具体的な施策を追記
2	いろいろな数値が記載されているため根拠が不明で目標値の算出方法も分かりづらい。 目標値を達成するためのストーリーが分かりやすいような施策を具体的に記載したほうが良い。	意見を反映	(資料2-1 根拠資料) 目標設定の考え方に明記
3	10年先のことを記載しているが、その時点で歯科医師がどれくらいいるのか考慮に入れるほうが良い。 健康、医療、福祉の分野が混在する記載が良いのか分からない。	意見を反映	資料2-2 P14, P17に明記
4	目標は現実に即した数値を設定するほうが良いのではないかな。	意見を反映	(資料2-1 根拠資料) 目標設定の考え方に明記
5	市町に移行していく事業もあると思うが、記載はこのままで良いのか。記載分は全て県が実施することになるのではないかな。	意見を反映	支援する等の表現に変更
6	難病の患者については手帳等がもらえないケースが多い。配慮を要する方のくくりでは達成が難しくなるのではないかな。	意見を反映	資料2-2 P15 歯科リスト や相談窓口、巡回歯科相談 等で検討
7	積極的に歯科全体の取組をされていることが評価からもよく分かる。市町の割合は地域格差の問題もあるので、市町の割合数について指標として置いておくほうが良い。	意見を反映	モニタリング指標に市町数を反映
8	国の方針に沿った指標とするのは分かるが、県独自の指標も大切ではないかな。 施策の記載について、どんな事業を想定しているのかが分かりやすく記載してほしい。	意見を反映	20歳代の歯科健診受診率 等の県独自指標について、 大学歯科健診や20歳の節目健診等の想定事業を明記
9	参考指標の意義が分からない。アウトプット、アウトカムで分けるやり方は県民にはわかりにくいのでは。	意見を反映	モニタリング指標に改名
10	対策から目標につながるような表記が必要ではないかな。この事業を実施するから減少/増加という見やすい記載が必要。	意見を反映	全ての指標に減少/増加を明記
11	[災害発生時や感染症まん延時における体制の確保及び平時からの整備]県行政での災害関係の会議等に県歯科医師会の参加とコーディネーターの配置を求める。	意見を反映	資料2-2 P18 災害時歯科 保健活動指針の改訂で検討
12	災害発生時の配慮を要する方へのおかゆ食等の食形態の支援と歯科衛生士の市町配置による口腔保健事業の充実が必要。	意見を反映	資料2-2 P18に記載